

北海道港湾空港建設協会

会報

平成25年 5 月

北のみなと

No.79



— 目 次 —

Report

北海道港湾空港建設協会 第28回通常総会開催	1
平成24年度 安全管理講習会	3
開会挨拶 (北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹)	
「港湾工事の安全対策について」 (北海道開発局港湾空港部港湾建設課 建設第2係長 西澤 英樹)	
「建設業における労働災害防止について」 (北海道労働局労働基準部安全課 主任産業安全専門官 山谷 幸雄)	
特別講演 『メタボリックシンドロームを防ぐ食事』 (医療法人 徳州会 札幌東徳州会病院 栄養科副主任 内山 絵里)	
平成24年度 港湾空港工事報告会	5
主催者挨拶 (北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹)	
来賓挨拶 (北海道開発局港湾空港部 港湾建設課長 梅沢 信敏)	
工事報告「ウトロ漁港人工地盤地中梁建設工事」 (㈱西村組 工事部工事課工事長 本田 善昭)	
「苫小牧港西港区勇払-10m岸壁改良工事」 (北興工業㈱ 現場代理人 大山 晃朗)	
「三石漁港外島防波堤B部建設工事」 (酒井建設㈱ 主任技師 宝金 広明)	
特別講演『北海道における防波堤建設技術の推移といま求められる現場技術』 (社)寒地港湾技術研究センター 理事長 水野 雄三)	
講 評 (北海道港湾空港建設協会 技術委員会副会長 宮本 義憲)	

各種記事

我が社の安全衛生管理 (堀松建設工業㈱ 安全衛生部長 佐々木佐歳) ...	8
私の趣味「私の趣味と雑感」(㈱西村組 吉本 靖俊)	10
新千歳空港 空港土木技術セミナーを開催	12
北海道開発局防災エキスパート (港湾・空港・漁港) 意見交換会 ...	13

Topics

流氷に舞うワシの群れ	14
苫前町凧あげ大会	15
全国犬ぞり稚内大会	16

Information

事務局だより	17
業界だより	17
広報委員会だより	17



開港から25年、新千歳空港は719haもの広大な土地に3,000mの滑走路2本とターミナル施設を備えた、北海道最大の拠点空港となりました。

北海道港湾空港建設協会 第28回 通常総会開催

 $R_{H1/3}/H_0'$ b/H_0'

当協会の第28回通常総会は、平成25年4月17日（水）ホテル札幌ガーデンパレスで開催した。67社の会員に出席をいただき、平成24年度の事業報告・収支決算、平成25年度の事業計画（案）・収支予算（案）は、いずれも原案どおり承認された。事業計画では、安全管理講習会、工事報告会、北海道開発局等発注機関への要望及び意見交換などに引き続き取り組むことを申し合わせた。



第28回通常総会



宮崎英樹会長 挨拶

冒頭、あいさつに立った宮崎英樹会長は、「我々は港湾・漁港・空港の建設に関する発注者の要請に的確に応えるという使命を負っている」と強調。「地域の経済や雇用の確保、災害対応の重要な担い手であるという認識を強く持って、今後も社会的責任を果たして行かなければならない」とし、協会運営への協力を求めた。

来賓あいさつでは、北海道開発局の栗田悟港湾空港部長が24年度補正予算等にかかる事業概要を示し、補正分については6月末までに契約を終えたい考えを説明し



北海道開発局栗田悟港湾空港部長 挨拶

た。また、新労務単価への適切な対応を求めるとともに、工事の安全管理体制の徹底を呼びかけた。



日本港湾空港建設協会連合会川嶋康宏会長 挨拶

日本港湾空港建設協会連合会の川嶋康宏会長は、「港湾関係の事業予算等は、最盛期に比べ、決して十分とは言えない」と述べ、「協会の社会的地位の向上や存在意義を明らかにするためにも、事業量の確保を外に向かって主張していくことが重要」と訴えた。

平成25年度 事業計画

1. 講習会等

- 1) 安全管理講習会
- 2) 港湾空港工事報告
- 3) シンポジウム、フォーラム等
- 4) 技術講習会

2. 要望及び意見交換会

- 1) 北海道開発局等に港湾空港関係予算及び実施に関する要望及び意見交換を行う。
 - ①港関係7団体合同の要望・意見交換会に参画する。
 - ②日本港湾空港建設協会連合会と共催の要望・意見交換会を開催する。
- 2) 北海道港湾振興団体連合会の一員として、港湾整備促進及び利用振興活動に参画する。

3. 調査研究

港湾空港建設技術の開発、向上に関する調査研究及び資料の収集並びにその他工事の施工等に関する事項について調査検討を行う。

4. 会報の発刊

港湾空港建設業の社会的地位向上に関する宣伝及び啓発等を目的として、会報誌「北のみなと」を3号発刊する。

5. 日本港湾空港建設協会連合会の事業参加

日本港湾空港建設協会連合会が開催するセミナー、会議等に参加する。

(記事は、「北海道通信」から一部抜粋して掲載しました)

平成24年度 安全管理講習会

日時 平成25年2月20日（水）9：30～12：00

場所 ホテルポールスター札幌

主催 北海道港湾空港建設協会 (社)北海道建設協会港湾・空港部会
 (社)日本埋立浚渫協会北海道支部 (社)日本海上起重技術協会北海道支部
 全国浚渫業協会北海道支部 全日本漁港建設協会北海道支部
 (社)日本潜水協会札幌支部



宮崎会長の挨拶

「重大災害防止を求め」 港湾関係 7 団体 安全管理講習会開く

北海道港湾空港建設協会など港湾関係 7 団体は 2 月 20 日 ホテルポールスター札幌で安全管理講習会を開き、会社の存亡に関わる重大災害を防ぐための安全対策を再認識するとともに健康管理についても学んだ。

北海道港湾空港建設協会と(社)北海道建設業協会港湾・漁港部会、(社)日本埋立浚渫協会北海道支部、(社)日本海上起重技術協会北海道支部、全国浚渫業協会北海道支部、全日本漁港建設協会北海道支部、(社)日本潜水協会札幌支部

部の共催。各団体の会員企業から経営者や現場担当者ら120人が参加した。

共催7団体を代表して北海道港湾空港建設協会の宮崎英樹会長は「重大事故を起こせば指名停止など会社の存続問題に直面するが、事故が後を絶たない状況にある」と指摘し、講習で安全対策の基礎やポイントをしっかりと学ぼうと呼びかけた。

講演で北海道開発局の西澤英樹港湾建設課第2係長が2012年に開発局所管現場内（全部門）で発生した事故は死亡事故と負傷者事故を含めて27件であったと報告、そのうち港湾・空港・漁港部門での事故の発生は負傷者事故の3件だったと報告。

西澤係長は事故事例報告で特に、高圧ホースの取り扱いや、型枠からの墜落など事故原因と防止対策を指導。さらに圧雪斜面での転落など冬季特有の事故事例を解説した。

北海道労働局労働基準部安全課の山谷幸雄主任産業安

全専門官は2012年の道内における建設業の死亡災害が前年の約3倍の27人に上がったと報告し、また、港湾・漁港・空港工事でも災害防止に繋がる事例を説明された。最後に効果的なリスクアセスメントの実践を求めた。

特別講演では、「医療法人」札幌東徳州会病院の内山絵里栄養科副主任が生活習慣病の発症原因となる「メタボリックシンドロームを防ぐ食事」について講演。

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満に加えて脂質異常、高血圧、高血糖のうち、2つ以上を持っている状態と説明。

また、メタボリックシンドロームを予防する方法では、1に運動、2に食事と説明されたが、食事では、まずは食べ過ぎない。主食・主菜・副菜のバランスを整え3食きちんと食べ、夕食は軽めにする。

油を使ったものを取りすぎない。副菜を多めに摂る。塩分を控える。これら無理をせずできるところから改善していくことが大切とアドバイスされた。



第24回 安全管理講習会

平成24年度 港湾空港工事報告会

日 時 平成25年 2 月20日（水）
場 所 ホテルポールスター札幌
主 催 北海道港湾空港建設協会

平成25年 2 月20日（水）ポールスター札幌において、当協会主催の「平成24年度 港湾空港工事報告会」を開催した。報告のあった 3 件の工事は、当協会技術委員会が平成23年度に完成した工事の中から、工程管理などに優れ、工事成績評価点の高い工事を対象に選定している。



第26回港湾空港工事報告会

主催者挨拶



主催者挨拶 宮崎会長

開催にあたり主催者を代表して宮崎会長は「この工事報告会は例年この時期に開催しており、現場において非常に参考になる報告会で、参加された皆様方の格好の勉強の機会と思っている」と挨拶し、この場で学んだことが現場で生かされるよう期待を寄せた。

来賓挨拶



来賓挨拶 梅沢港湾建設課長

続いて北海道開発局港湾空港部 港湾建設課 梅沢課長から挨拶をいただきました。

梅沢課長は「今回報告される 3 件の工事は、平成24年度北海道開発局優良工事として表彰された工事でもあり、他の模範になる工事である」と述べるとともに、各工事が表彰された推薦理由について説明があった。

また「今後も官・民・有識者・研究機関の方々と連携して北海道の厳しい自然環境をより豊かな未来へつないでいくための技術開発に取り組んでいきたい。この報告会がそのためのいい機会に」と述べていました。

工事報告

工事報告は、(株)西村組施工の「ウトロ漁港人工地盤地中梁建設工事」、北興工業(株)施工の「苫小牧港西港区勇払-10m岸壁改良工事」、酒井建設(株)施工の「三石漁港外島防波堤B部建設工事」の3件で、施工各社の担当者が工程管理の工夫、厳しい施工条件への対応、関係機関との調整、安全管理などの取組についての報告があった。

●ウトロ漁港人工地盤地中梁建設工事



株式会社 西村組
工事部工事課 工事長
本田 善昭 氏

- ・請負者 株式会社 西村組
- ・工期 平成23年3月9日～平成23年12月15日
- ・発注者 網走開発建設部
- ・工事内容

土工

土砂掘削	12,300m ³
裏込石撤去	1,890m ³
裏込石投入	1,671m ³
埋戻し	6,570m ³

基礎・地中梁工

均しコンクリート	876m ³
杭頭処理(ベノト杭)	106本
基礎・地中梁(コンクリート打設)	3,115m ³
PCアンカー架台セット	22組

仮設工

ベノト掘削(砂置換)	110本
仮設鋼矢板打設	388枚
捨コンクリート打設	1,471m ³

●苫小牧港西港区勇払-10m岸壁改良工事



北興工業株式会社
現場代理人
大山 晃朗 氏

- ・請負者 北興工業株式会社
- ・工期 平成23年3月24日～平成24年3月9日
- ・発注者 室蘭開発建設部
- ・工事内容

構造物撤去工

既設鋼矢板撤去、既設タイロッド撤去	1式
既設コンクリート取壊し	1式

土工

土砂掘削・埋戻し	1式
----------	----

本体工	55.14m
-----	--------

鋼矢板打設、控鋼管杭打設、タイロッド設置

上部工	56.94m
-----	--------

上部コンクリート、控上部コンクリート

付属工	56.94m
-----	--------

係船柱、防舷材、車止め、縁金物、防食工

舗装工

路盤、アスファルト舗装、コンクリート舗装	1式
----------------------	----

仮設工

仮囲い、給水管、電気管、土砂流出対策工	
付帯施設工、仮設道路工	1式

●三石漁港外島防波堤B部建設工事



酒井建設株式会社
主任技師
宝金 広明 氏

- ・請負者 酒井建設株式会社
- ・工期 平成23年7月29日～平成24年2月15日
- ・発注者 室蘭開発建設部
- ・工事内容

床掘工

床堀	7,215㎡
基礎工	
捨石投入	594㎡
本均し	405㎡
荒均し (±30)	115㎡
荒均し (±50)	119㎡
本体工	
ケーソン据付	1 函
根固工	
2 t ホロスケヤー製作・据付	101個
2 t 三柱製作・据付	229個
上部工	
上部コンクリート	20m
胸壁コンクリート	20m
消波工	
16 t、25 t、30 t、50 t ブロック撤去・据付	1 式
仮設工	
鋼製プール	1 式

特別講演



特別講演 水野理事長

特別講演は、社団法人寒地港湾技術センター 水野理事長が「北海道における防波堤建設技術の推移といま求められる現場技術」と題し講演した。

水野理事長は、北海道での防波堤等の建設技術の推移について、明治時代の廣井博士の功績から現在まで16件の技術を紹介。また、港湾事業費の減少に伴う、小規模予算による地方港湾の防波堤整備上の技術課題について具体的な事例を示した。

参加者は、これまで培ってきた技術を再確認するとともに、今後必要となる技術の動向について見識を深めた。

最後に、「耐用年数を経過する港湾施設が急増する、工事等で日々港を使用している時、「何か異常があるのでは無いか」という視点で施設を見ることが重要。これにより異常を早期に発見でき事故の未然防止になる」と港湾技術者の目による日々の変状チェックに期待していた。

記念品贈呈



記念品贈呈

工事報告・特別講演終了後、報告者3名に技術委員会中村部会長から記念品が贈呈されました。

講 評



講評 宮本技術委員会副会長

最後に宮本技術委員会副会長から、お忙しい中わかりやすい資料の作成と丁寧な報告をしていただいた3名の報告者へお礼するとともに、報告のあった各工事についての感想を述べ工事報告会を終了した。

我が社の安全衛生管理

堀松建設工業株式会社 安全衛生部長 佐々木佐歳

1. はじめに

当社は昭和4年創業以来、84周年を向えるに至っております。港湾・漁港、土木、建築の総合建設業者として留萌市に拠点を置き、事業の展開を図っております。

安全衛生方針の基本理念は『「人命尊重」を理念の基に「安全」と「健康」の確保を最優先し、全社員の参加で、安全で快適な職場環境を目指す』を掲げ、安全衛生活動を行っています。

2. 安全衛生方針

当社の安全衛生基本理念を貫くため3つの行動目標を掲げております。

- ①労働安全衛生に関する法令、並びに、当社の安全衛生に関する規程を守り施工管理と一体化して実施及び運用を図る。
- ②全社員の協力のもとに、安全衛生活動を展開し、安全教育の徹底と安全衛生の確保と安全衛生の向上に努める。
- ③機械、船舶、設備の安全化を図るとともに快適な職場環境の形成を目指す。

3. 安全衛生管理計画

無事故・無災害の達成のため前年度の反省を踏まえて、目標や実行計画を明確にした内容に努め、実現可能な行動計画となるよう検討し、効果のある安全衛生管理計画を図っております。

4. 安全衛生管理活動

(1)安全大会

4月上旬に本社にて安全祈願祭の後、市民ホールに会場を移して協力会社参加のもと開催されます。

大会では年度の安全衛生管理計画の実行説明、各部署の安全衛生目標が発表されます。

また、安全優良表彰（現場、協力会社、職長）を行い、受賞現場の記録ビデオを上映し、安全の取組みについて工夫した事などを大会参加者に披露します。

来賓として留萌労働基準監督署長より災害防止について安全講話をいただき、社員代表者による決意宣言をもって安全意識の高揚を図っております。



安全大会（堀松社長訓示）

安全表彰

(2)交通安全大会

繁忙期・追込み期を向える10月に交通安全大会を開催し、業務中の交通事故防止のため留萌警察署交通課長の講話をいただき、事故防止について再認識を図っております。

(3)店社安全パトロール

店社パトロールは毎月1回以上安全衛生部が行っていますが、それとは別に土木部・建築部も参加した3部



交通安全活動（旗の波運動）



交通安全大会（留萌警察署交通課長）

署による合同パトロールを行って担当者の違う視点効果を狙い、月1回実施しております。同じ部署でのチェックと違い、気付かなかった点が指摘されるなど、見過ごしや気付かなかった危険の排除に効果が上がっております。

また、指摘事項や是正事項があった場合は、「発生・



当社オリジナルのぼり旗



店社合同パトロール

処理報告書」の帳票を用い、メールにて現場に送付します。是正結果（写真）は安全衛生部に返信してもらい、確認後、再び現場へ確認済みを送り、情報の一方通行のないように努めております。

5. 安全衛生管理活動

- (1) 工事着手前に施工検討会を開催し、作業毎に予想される災害及びリスク評価、対策を検討しています。
- (2) 現場毎に店社安全衛生教育を工事着手直後実施し、安全意識の高揚に努めています。
- (3) 低所作業や危険性の薄い作業での労働災害が大きな災害へと及ぶことの注意喚起として、当社オリジナルのぼり旗を各現場で表示し、油断や省略行為の防止対策の一環としています。
- (4) 安全に関する情報（事故、災害事例、安全活動及び安全教育の資料など）を入手した場合は全ての作業所へ提供し、類似の災害防止や安全教育に活用しています。
- (5) 交通KYの実施及び、ヒヤリマップの活用を行って通勤や現場間移動時による事故防止を図っています。
- (6) 現場単位の表彰制度を継続し、安全意識の高揚を図り、作業員の安全作業の参加意識を促しております。

6. むすびに

近年の労働災害発生統計を見ると、交通災害（通勤時含む）の発生率が非常に高くなって来ています。このことを鑑み、現場での災害防止はもとより交通労働災害の防止にも力を入れて行かねばなりません。労働災害防止と交通事故防止を両輪ととらえ、業務に携わるすべての人が一丸となる環境を、より一層強いものにしていかねばならないと思っております。

私の趣味

『私の趣味と雑感』



株式会社 西村組
吉本 靖俊

当原稿の依頼をもらった時、ハタと困った。人に言えるほどの趣味など持っていないからだ。そうは言っても、広報誌のスペースを埋めるため編集委員は大変苦労するのを、自分の経験からも理解できるので、二つ返事で引き受けてしまった。しょうがない！今やっている趣味らしいことと、思うことを脱線しつつ書いて紙面を埋めさせてもらおう！

私も、先月（3月）で58歳。途中の中断もあるが約10年の単身赴任生活を終え、昨年5月から自宅通勤で快調に勤務している。しかし、単身赴任中は、不摂生な食事や生活習慣からか、人間ドックの検査ではいつも“要検査”と言われていた。特に、高血圧と高コレステロールで、ここ4年、通院や薬の服用を行ってきた。おまけに、東京単身赴任が1年ほど経過したときに腰痛をわずらってしまい、以来週1回のリハビリ通院を今も続けている。そんなことから、健康の大切さを身を持って感じ、健康管理にはそれなりの摂生と努力を払っているつもりだ。

健康管理で特に行っていることは、函館に初めて単身赴任した時から始めたランニングだ。と言うよりは、速さではジョギングかウォーキングかもしれないが、自分ではマラソンだと思い、これまで10数回ほど札幌や勤務地周辺での市民マラソン大会に出場している。距離もフルマラソンの42.195kmではなく、5kmや10km、最大でもハーフマラソン程度で、これを時速10kmほどのゆっくりとした速さで走るのが、私のマラソンである。

H21年1月に千葉マリンマラソンに出場した後、腰痛を併発したため3年ばかりマラソンから遠ざかっていたが、

単身赴任が解消され体調も良くなったので、昨年10月に行われた札幌マラソン（5kmオープン）に久しぶりに出場した。天気も良く、快調にゴールしたが、「また走れる」「まだ走れる」という実感でうれしかった思いがある。その時の参加者1209名の結果を図に示してみた。速い人は16分台、最も遅い人で51分台である。平均31分は統計学で言う、正規分布をしていることが何となく理解できる。私の成績は29分37秒で418位（図中■）であった。目標の30分を切ったので自分としては満足である。

ところで、この図を見て思うことを書いてみたい。スタート前は、参加者1209名は横一線の同じ位置に立っている（実際は縦長に並んで、後方の人はスタートまで数分程度かかる）が、5kmのマラソンという“競争”を経ることにより、1209名には順位がつき、このような分布を示す序列がついたことになる。

競争を行うと勝者と敗者が生ずるのは必然だが、何を基準に勝者と敗者を決めるのであろうか？単に5kmを走りきる時間に着目して言えば、この図に示す通り16分台で走った者が勝者であり、それ以外は敗者で、51分台で走った者は最大の敗者であると言える。しかし、見方を変えて、簡単には表示できないが、自分の目標に対する“達成度”や“満足度”を横軸にとって整理できたとすればどうであろうか？全く違った順番になるのではないだろうか。或いは、周りで応援している人々が受ける“感動”というもの

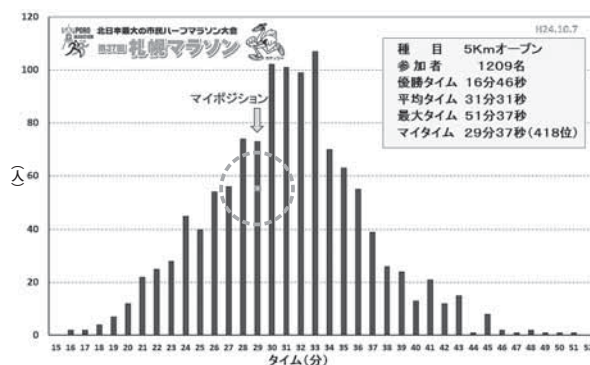


図 最も簡単で単純な方法で順位をつけたマラソン競争の結果

を指標にとって整理できたとしたらどうであろうか？御老人の方が背を丸めて必死になってゴールに向かっている姿を見ると、「頑張れ！頑張れ！」と心で叫んでしまうが、そういう感動を与えてくれる最終ゴールの人が優勝者であるかもしれないのだ。私もマラソンに参加するときは、他人との競争を意識したことは一度もなく（意識しても無駄だが！）、自分の目標に対して勝ったときは勝者であり、下回ったときは敗者である。市民マラソンの良いところは、いろいろな事情をもつ参加者が自分の目標を持ち、自分のスタイルで自由な競争を繰り広げることだ。主催者が発表する順位は、最も簡単で単純な方法で順位付けした一面的な序列に過ぎないのだ。

もう少しコースを外れさせてもらうが、昨今、社会を賑わしている話題で「TPP問題」がある。ご承知のように、安倍内閣は交渉参加を決め、我が国の主張を通すと言っているが、本当に可能であろうか？甚だ疑問だ。このTPPにおけるアメリカの深意はどこにあるのだろうか？

アメリカは19世紀中頃から西部開拓をすすめ、ネイティブアメリカン（いわゆるインディアン）が持っている土地を奪い、そこに都市をつくり、産業を興し、いまの“アメリカ”を築いてきたが、このような白人による西部開拓を正当化する理屈として、当時は“マニフェスト・デスティニー（領土拡大は神の命による明白なる使命）”という言葉があったようだ。“神頼みのような屁理屈”で自らの行動を正当化していたということだろう。

しかし、今の世の中は昔と違い、合理的な考え方が必要である。以前話題となったNHK教育テレビの番組「サンデル教授の白熱教室」でも、様々な状況における“正義”について議論されていたが、アメリカ人は自らの行動を正当化するための“理屈”、すなわち“正義”の議論を好む民族であると感じた。

現在のアメリカ社会を見て感じることは、「平等」という概念に重きを置いていることだ。しかも、その「平等」は、「結果の平等」ではなく「機会の平等」を重要視している。例えば、アメリカの大学は「入るのは簡単だが、出るのは難しい」とよく言われるが、これなどは、皆同じスタートラインに立たすが、勉学競争でフルイをかけ、勝者だけを卒業させる、という考え方なのだろう。そして、その結果が就職にも反映し、更にはその後の競争社会を経て、勝者は巨万の富を保有し、敗者は路上生活というのが、今のアメリカの姿だ。アメリカの貧富の差は日本よりはるかに拡

大しているが、この現象は、「自分は努力したので競争に勝って当然だ！負けるのは自分達の努力が足りなかったせいだ！何故なら、皆同じところから同じ条件でスタートしたはずだ！」というアメリカ人の“理屈”や“正義”感で正当化されていると私は理解している。

TPPの真意は「平等な条件の下で自由な競争による経済の活性化、社会の発展」ということであろうが、深意は「アメリカがグローバルな経済競争に勝つことの正当性を確保すること」であろう。すなわち、関税を撤廃し、様々な非関税障壁を取り除き、先ずは皆同じスタートラインに（平等に）立たせる、その後は、自由主義経済、市場主義経済という土俵の中で競争し、売り上げや利益という“金額”ベースの指標で優位に立ち、勝者として徹底的に勝つ（儲ける）。敗者は産業崩壊や企業倒産等の壊滅的ダメージを受けることになるが、それは自分たちのせいだ！ということであろう。ここにもアメリカ風の“正義”感があると思えてくる。

我が国の各産業は、自然環境、社会環境など様々な条件の中で、強い面を持てば弱い面も持ち、それぞれ工夫をしながら発展してきた。そこには、取れるだけ取る、儲けるだけ儲けるというような低次元の競争心や自己欲求、自己満足ではなく、地域のため、社会のため、或いは家族や自分のため、自らを犠牲にしてまでも社会に貢献するという、アメリカ社会とは異なる“正義”感が流れていると思っている。ここでは詳細を述べないが、我が国には数千年にもわたる歴史観、宗教観、自然観などがあり、それらに基づく日本人の“正義”を心の根底に保有していると言える。独立後まだ237年しか経っていない新しい国の“正義”を超えるものを持っているはずだ。

おっとっと！余計なところまで筆を走らせてしまったが、私の深意は「競争を否定するものでは全くないが、いろいろな正義があり、いろいろな競争のスタイルがあるはず」ということだ。何はともあれ、走ることは健康に良いことだ。当面の目標は、8月の北海道マラソン（今年から11kmコースが新設）、次いで10月の札幌マラソン（10kmコース）を考えている。いつかはハワイホノルルマラソンにも出たいものだ！アメリカにも素晴らしい競争があるようだ！

なお、当拙文は私の個人的な思いを書いたものですので、ご了解願います。

新千歳空港 空港土木技術セミナーを開催

札幌開発建設部は2月8日、札幌第一合同庁舎で「新千歳空港 空港土木技術セミナー」を開催した。港湾空港建設技術サービスセンターの八谷好高理事が「積雪寒冷地空港の施設整備について」と題して特別講演したほか、二人が基調報告や講演を実施。開発局職員、同開建職員、建設業関係者ら約90人が参加し、新千歳空港の整備を通じて培われた「積雪寒冷地空港の土木技術」について理解を深めた。

はじめに、西村泰弘部長があいさつ。新千歳空港の歴史や変遷について説明し「あらためて、空港のもつ役割、重要性について理解を深めてもらえば」と期待を寄せた。

続いて、千歳空港建設事業所の秋葉洋一所長が新千歳空港のあゆみを説明したあと、空港の整備事業について

紹介。耐震対策のほか、就航率向上の取組について報告した。

特別講演に移り八谷理事が、空港の施設・用地造成・基本施設について解説したあと、積雪寒冷地空港における施設の在り方について紹介。①航空機運航の定時性、アクセス時間の減少などによる信頼と利便性の確保②地域特性に合った施設の整備・運用③地域特性に合った材料・工法の開発④外部排出物・低CO₂対策などの環境への配慮⑤災害復旧拠点としての機能 の五点を示した。

そのほか、開発局の平澤充成空港課長が「これからの新千歳空港発展を支援する技術について」と題して講演した。

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました)



講演する平澤充成開発局空港課長



新千歳空港 空港土木技術セミナー状況

北海道開発局防災エキスパート （港湾・空港・漁港）意見交換会

平成24年3月8日、北海道開発局会議室において、全道港湾事務所長と防災エキスパート（港湾・空港・漁港）との意見交換会を開催した。

北海道開発局港湾空港部港湾建設課、各港湾事務所長、防災エキスパート、NPO法人みなとの文化振興機構事務局が参加した。

開催に先立ち、北海道開発局港湾空港部栗田悟部長から主催者挨拶を受け、続いて事務局から参集時の安全性、連絡手段の確実性など東日本大震災での課題を踏まえ、平成24年1月22日付けで改定された防災エキスパート

制度要綱、要領について、又、各地方整備局防災エキスパートの活動事例などについて情報提供があった。

意見交換は災害が発生した際、防災エキスパートが迅速且つ効果的な活用が図られるように各港湾事務所長から最近の港湾・漁港情勢について情報提供があり、緊急時の派遣体制に対する課題、港湾におけるBCP（事業継続計画）などについて、意見交換が行われた。

最後に港湾空港部港湾建設課梅沢信敏課長の閉会挨拶があり、2時間の意見交換会は終了した。



栗田港湾空港部長の挨拶



各港湾事務所長からの説明



梅沢港湾建設課長の閉会挨拶

流水に舞うワシの群れ



オオワシやオジロワシが流水の上を飛び回る

羅臼町で観光船の流水クルージングが人気を呼んだ。流水の上で群がるワシを求めて多い日で約150人の観光客らが訪れた。

船は羅臼漁港を出港し、約5分で流水帯に到着。200羽ほどのオオワシやオジロワシの群れの前ではカメラのシャッター音がひっきりなしに響く。

1月下旬から運航する知床ネイチャークルーズの観光船エバーグリーン（19トン）に乗った東京都の動物写真家の前川さんは「流水の上でワシの群れが見られるのは羅臼だけ」と魅力を話す。

観光向けの1時間4千円、カメラマン向けの2時間半8千円などのコースがある。3月末まで町内4社が運航。

（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）

苫前町凧あげ大会 144基が冬空に舞う

第21回北海道凧あげ大会・第40回苫前町凧あげ大会が、2月24日午前9時30分からとままえ温泉ふわっと周辺で開かれ、町内をはじめ羽幌町や上川管内美深町、三重県桑名市などから個人、グループ合わせて265人が出場。144基の手作りの凧が冬空に舞った。会場には見物客ら約3千人が訪れ、道北地方の冬の風物詩を楽しんだ。

凧あげは、ふわっとに隣接する夕陽丘オートキャンプ場を会場に実施。親子、小学生1・2年生、同3・

4年生、同5・6年生、中学生、高校・一般、連凧、大凧の計8部門で凧ののぼり具合やデザインなどを競った。

この日は青空が広がり、凧あげには絶好のコンディション。アニメのキャラクターや武者絵などを図柄にしたビニール凧や連凧、和凧が風をはらんで大空に舞い上がり、町民や観光客は風の強い苫前ならではの冬のイベントを堪能した。

(記事は留萌新聞から抜粋して掲載しました)



苫前マリビジョン協議会の凧あげの様子



全国犬ぞり稚内大会

道内外の犬ぞり愛好者が集まる「第30回全国犬ぞり稚内大会」(実行委主催)が23日、稚内市の稚内空港公園特設会場で開催し、白熱したレースが繰り広げられた。

大会は映画「南極物語」の上映を機に始まった。稚内や札幌、小樽など道内と、宮城県、愛知県から計23人が参加し、犬はシベリアンハスキーなど90頭が出場。24日までの2日間で、1～6頭引きまで13レースを行った。

時折、ふぶく厳しい寒さの中、初日は2～4頭引きの

レースが行われた。

マッシャーとよばれる乗り手が声を掛けると、犬は白い息を吐きながら、白銀のコースを駆け抜けた。

3キロを走る3頭引きに出場した名寄市の主婦渡辺美穂さん(27)は「小学2年生の時から毎年出場しています。懸命に走ってくれる犬との一体感が魅力」と話していた。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



◎事務局だより◎

1. 常任理事会の開催

平成25年4月12日（金）16時より常任理事会を開催した。

議案 平成25年総会案件について
ホテル札幌ガーデンパレス

2. 通常総会、理事会の開催

平成25年4月17日（水）15：30～
ホテル札幌ガーデンパレス

3. 日本港湾空港建設協会連合会総会の開催

平成25年5月8日（水）
明治記念館

4. 広報委員会の開催

- 1）平成25年2月22日（金）
広報誌「北のみなと79号」編集について
- 2）平成25年3月15日（金）
広報誌「北のみなと79号」編集について
- 3）平成25年4月17日（水）
広報誌「北のみなと79号」編集について

5. 安全管理講習会の開催

平成25年2月20日（水）9：30～
ホテルポールスター札幌

6. 港湾空港工事報告会

平成25年2月20日（水）13：30～
ホテルポールスター札幌

7. 港関係団体連絡会

- 平成25年4月19日（金）14：45～
議題
- ・平成24年度収支決算及び平成25年度収支予算案について
 - ・平成25年度事業計画案について
 - ・北海道開発局との情報交換 新総合評価落札方式について
 - ・その他

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

- 清水建設(株)北海道支店
執行役員支店長 山中庸彦 平成25年4月
- 大成建設(株)札幌支店
執行役員支店長 土井隆夫 平成25年4月
- (株)松本組
代表取締役社長 堀岡眞吾 平成25年4月

◎広報委員会だより◎

平成25年5月現在の広報委員は次表のとおりです。

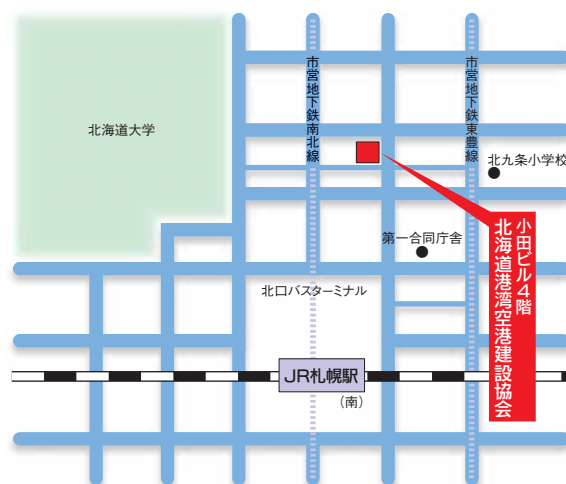
今後の広報活動強化のため、副部会長を二名体制で行っていきたいと思いますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

委員長	佐 見 誠	東亜建設工業(株)
副委員長	白 川 隆 司	東洋建設(株)
委員（部会長）	小 山 良 明	堀松建設工業(株)
（副部会長）	志 賀 保	五洋建設(株)
（副部会長）	東 志 郎	萩原建設工業(株)
	大 西 治 朗	菱中建設(株)
	櫻 庭 榮	(株)中田組
	荒 井 直 人	東亜建設工業(株)
	毛 利 照 男	釧石工業(株)
	渡 辺 修 司	(株)菅原組



新国際線ターミナル、国内線ターミナルを結ぶ連絡通路

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.79

発行年月 平成25年5月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版